日本の生活場面で必要な日本語を学ぶ
「いろどり日本語オンラインコース」の開発

安達祥子、熊野七絵、笠井陽介、竹内智美、宮内文音、國頭あさひ
（国際交流基金関西国際センター）

Development of the “IRODORI Japanese Online Course” for Learning the Japanese Language Necessary for Daily Life Situations in Japan

Shoko ADACHI　Nanae KUMANO　Yosuke KASAI　Tomomi TAKEUCHI　Ayane MIYAUCHI　Asahi KUNITO,　The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai

要旨：日本での生活場面で必要な日本語を総合的に学ぶことができる「いろどり日本語オンラインコース」初級 1（A2）を開発した。コースのメインコンテンツは、学習コンテンツと練習コンテンツである。学習コンテンツでは目標 Can-do に沿ってスモールステップで学習をすすめられる構成とした。また、海外の学習者が日本の生活場面をイメージできるよう、動画で場面理解や会話練習を行うことができるようにした。練習コンテンツでは、Can-do 達成を支える言語知識のうち、学習者自身の苦手なところや自信がないところを選んで練習できるようにし、インターネットが不安定な環境であってもストレスなく学習ができるようアプリ化を行った。

キーワード：e ラーニング、オンラインコース、アプリ、自学自習、生活場面、外国人材

1.　「いろどり日本語オンラインコース」開発の経緯

国際交流基金では、外国人材の受入・共生に向けた政策の一環として、主としてアジア諸国を対象として①日本語能力判定テスト JFT-Basic の実施、②生活日本語のための Can-do・教材等の開発・普及、③海外日本語教師の育成、④海外日本語教育活動強化支援、などの新たな取組を行っている。このうち、②の事業として、「JF 生活日本語 Can-do」が開発された（国際交流基金. 2019）。「JF 生活日本語 Can-do」は、日本語を母語としない外国人が、例えば在留資格「特定技能」等で来日する場合、日本での生活場面で求められる基礎的な日本語コミュニケーション力を Can-do Statement（「～できる」という課題遂行力を表す形）で記述し、リストにまとめたものである。また、2020 年 3 月には教材『いろどり　生活の日本語』（国際交流基金. 2020）（以下、教材『いろどり』）が公開された。教材『いろどり』は日本で生活や仕事をする際に必要となる基礎的な日本語のコミュニケーション力を身につけるための教材で、「JF 生活日本語 Can-do」にもとづいて学習目標が設定されている。この教材『いろどり』をもとに、教室などの日本語学習の場がない学習者にも広く学習の機会を提供することを目的として「いろどり日本語オンラインコース」（以下、いろどりコース）の開発を行い、2021 年 5 月に初級 1（A2）レベルのコースを開講し

た（国際交流基金. 2021）。

2.　開発の方針

2.1　想定ユーザーとニーズ

いろどりコースでは、働きながら日本で生活することを希望しているアジア地域を中心とした海外在住の成人学習者を主なユーザーとして想定し、以下の 5 点をニーズとして抽出した。

(1)日本の生活場面でコミュニケーションに支障がない程度の日本語力を身に付けたい
(2)一定の期間内で必要最低限のことを学びたい
(3)日本語の言語的な知識をしっかり学びたい
(4)自分に必要な内容を選んで学びたい
(5)端末や場所を限定されず、隙間時間に気軽に学びたい

2.2　開発のコンセプト

2.1 で挙げたニーズに応えるため、いろどりコース開発のコンセプトを以下の 3 点とした。

①生活場面で必要な日本語が学べる
②学習者が必要なところだけカスタマイズして学べる
③ストレスなく学べる

これらのコンセプトを実現するために、いろどりコースでは、a. 教材『いろどり』をベースとした、Can-do 目標に沿って学ぶ「学習コンテンツ」、b. コースオリジナルの「練習コンテンツ」を制作することにした。

3.　コースサイトの構成

コースサイトの構成は図 1 の通りである。ユーザーは、トップページで新規ユーザー登録を行えばコースを受講できるようになる。コースのメインコンテンツは、2.2 で述べた「学習コンテンツ」、「練習コンテンツ」である。その他、自学自習をサポートするための「サポートコンテンツ」や学習進捗を管理できる「マイページ」がある。これらのコンテンツのうち、次節ではメインコンテンツである「学習コンテンツ」、「練習コンテンツ」の特徴とコンセプト実現のために工夫した点について述べる。

図 1：コースサイトの構成

4. コースコンテンツの特徴と工夫点

4.1 学習コンテンツ

学習コンテンツは、教材『いろどり』と同様、9 つのトピック、全 18 課で構成されており、各課 3～5 の目標 Can-do が設定されている。課と Can-do ごとの活動の流れは表 1 の通りである。課の学習の流れは①トピックや目標 Can-do の確認（STEP1）、②Can-do 達成のための活動（STEP2 から STEP4 を Can-do ごとにくり返す）、③まとめ（STEP5）、④ふりかえり（STEP6）となっている。②では、活動内容によってステップをさらに細分化し、スモールステップとすることで段階的に目標に到達できるよう設計した。表 1 の右列は、それぞれのステップがガニェの 9 教授事象（R・M・ガニェ他. 2007）でどの働きかけにあたるかを示したものである。

表 1：課と Can-do ごとの活動の流れ

ステップ番号	ステップ名	活動内容	（参考）ガニェの 9 教授事象
STEP1	目標を知る・準備	トピック、ストーリー、目標 Can-do、場面を確認する	学習者の注意を喚起する 授業の目標を知らせる
STEP2	ことばの準備	Can-do 達成に必要なことばの音声を聞いて、言う練習をする	新しい事項を提示する
STEP3	聞く/読む・気づく	会話を聞いたり素材を読んだりして、内容を理解し、表現や文型に注目する	新しい事項を提示する 学習の指針を与える
STEP4	使ってみる	動画を見て話す練習をしたり、実際に自分で書いてみたりする	練習の機会をつくる フィードバックを与える
STEP5	まとめ	クイズで、課の学習を振り返る	保持と転移を高める
STEP6	Can-do チェック	目標 Can-do ができたかどうかチェックする	学習の成果を評価する

4.2　学習コンテンツにおけるコンセプト実現のための工夫

(1)日本の生活場面をイメージしやすくするための動画

2 節で述べたコンセプト①「生活場面に必要な日本語が学べる」を実現するために、動画制作を行い、STEP1、STEP4、STEP6 に活用した。動画は、日本で働きながら生活をする外国人を主人公としたドラマにし、世界観をユーザー自身に引き寄せて見られるようにした。STEP1 では動画を見てトピックや場面を理解し（図 2）、STEP4 では「ドラマの登場人物と話す」活動を行う（図 3）。STEP6 では課のまとめとして、STEP1 で見た動画を再度見て、課で学んだことが理解できるようになったか振り返る（図 4）。

図 2：STEP1 ストーリーを知る

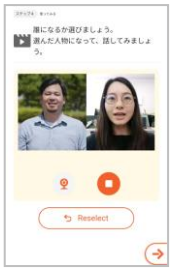

図 3：STEP4 話してみる

図 4：STEP6 ふりかえり

STEP1 は場面をイメージすることが目的であるため、字幕などの表示はせず、聞き取れる日本語を聞きながらどのような場面の日本語を学習するのか注目させるようにした。STEP4 では、ドラマの登場人物が自分に話しかけているようなユーザーインターフェースとし、自学自習であっても疑似的に日本の生活場面で日本人と話す体験ができるように工

夫した。なお、Android で Google Chrome を利用すれば録画、Windows で Google Chrome または Microsoft Edge を利用すれば録音ができ、ドラマの人物と自分とのやりとりがどうであったか振り返ることもできる。STEP6 では、学習の成果を確認することが目的のため、必要に応じて表現や意味を確認できるよう、日本語字幕および解説言語訳の表示／非表示が選択できる機能を持たせた。

(2)ユーザーがストレスなく操作できるデザイン

コンセプト③「ストレスなく学べる」を実現するため、ページはシンプルな構成とし、ナビゲーションやメニューにはなるべく視覚的にわかりやすいアイコンを配置した。また、文字情報を減らすことで、学習の負担を減らすように工夫した。

4.3　練習コンテンツ

2 節で述べた通り、練習コンテンツは Can-do を達成するのに必要な言語知識を獲得、強化することを目的として制作したコースオリジナルのコンテンツである。この「必要な言語知識」は、ユーザーの習熟度やレディネスなどによって必要とするものが異なると考えられる。そのため、練習コンテンツでは「ことば」「漢字」「文法」「表現」の 4 つのカテゴリーを設けて練習問題を作成した。練習方法は表 2 で示す通りである。

表 2：練習コンテンツのカテゴリーと練習方法

カテゴリー	練習方法	内容
ことば	フラッシュカード	ことばの意味を確認する、聞いて意味を確認する
	見て選ぶ	イラストを見て正しいことばを選ぶ
	聞いて選ぶ	ことばを聞いて正しい意味を選ぶ
漢字	フラッシュカード	漢字ことばを見て読み方や意味を確認する
	書く	漢字ことばを手で書く
	見て選ぶ	漢字ことばを見て正しい読み方を選ぶ
	タイピングする	漢字ことばの読み方をひらがなでタイピングする
	読んで選ぶ	文を読んで空欄に入る漢字ことばを選ぶ
文法	フラッシュカード	動詞や形容詞の活用形を確認する
	読んで選ぶ	文を読んで空欄に入るものを選ぶ
	タイピングする	空欄に入る適当なことばをタイピングする
表現	読んで選ぶ	会話を読んで空欄に入る適切な表現を選ぶ
	聞いて話す	音声を聞いて答える

4.4　練習コンテンツにおけるコンセプト実現のための工夫

(1)ユーザー自身が必要なものを選んで学ぶことができる機能

4.3 で述べたように、ユーザー自身が項目を選択して練習することができるように、カテゴリーやトピックやカテゴリー、練習方法を選択できる機能をもたせた。また、2 回目以降に同じ練習を行う場合は、「間違った問題のみ」で絞り込むことで、前回練習時に間違った問題だけを練習することができるようにした。

(2)ストレスなく練習できるアプリ

練習コンテンツは問題の量が多く、インターネットが不安定な環境ではローディングが生じることでスムーズに練習をすすめられないことが考えられる。そこで、アプリ化を行った（Android 版アプリ「いろどり　練習」)。アプリは一度ダウンロードすればオフラインでも使えるようになるため、インターネットが不安定な環境でもストレスなく練習をすることができる。

5.　おわりに

本稿では、いろどりコースのコンセプト及びその実現方法と工夫について述べた。初級 1 コースは 2021 年 5 月に公開し、6 月現在、アジア諸国を中心に 100 以上の国・地域から約 6,000 名のユーザーがいろどりコースでの学習を開始している。

今後はアクセス解析を活用したコースサイトにおけるユーザーの学習行動の分析、アンケート調査によるユーザーの反響の収集等を通して、いろどりコースのコンセプトが各種コンテンツを通して実現できているか、検証を行っていきたい。

参考文献

国際交流基金. 2020.『いろどり　生活の日本語』
（https://www.irodori.jpf.go.jp/　2021/06/17 参照）.

国際交流基金. 2021.「いろどり日本語オンラインコース」
（https://www.irodori-online.jpf.go.jp/　2021/06/17 参照）.

国際交流基金. 2021.「Android 版アプリ「いろどり　練習」」
（https://play.google.com/store/apps/details?id=jpf.go.jp.irodorionline.irodoriPractice
2021/06/17 参照）.

国際交流基金. 2019.「JF 生活日本語 Can-do」
（https://www.jpf.go.jp/j/urawa/j_rsorcs/seikatsu.html　2021/06/17 参照）.

国際交流基金. 2017.『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』
（https://jfstandard.jp/pdf/web_whole.pdf　2021/06/17 参照）.

R・M・ガニェ, W・W・ウェイジャー, K・C・ゴラス, J・M・ケラー. 2007.『インストラクショナルデザインの原理』北大路書房.